

## ＜受賞結果一覧＞

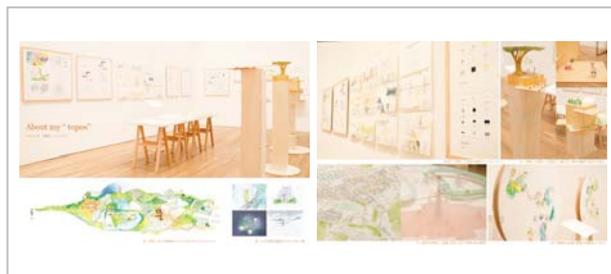
賞(賞典)	作品名	作者	出身校
大賞 (賞牌と賞金 100 万円)	About my “topos”	杉山 夏実 (スギヤマ ナツミ)	東京藝術大学大学院 美術研究科 デザイン専攻
佳作 (賞牌と賞金 30 万円)	行為の軌跡 -活字の裏の世界-	荒井 美波 (アライ ミナミ)	武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科
	浸都の改築 -海拔ゼロメートル 地帯における街区更改計画-	涌井 匠 (ウクイ タクミ)	日本大学 理工学部 海洋建築工学科
三菱化学賞 (賞牌と賞金 30 万円)	休耕及び耕作放棄された水田の 維持管理のためのデザイン研究	森 恭平 (モリ キョウヘイ)	九州大学 芸術工学部 工業設計学科
<b>審査員特別賞</b>			
水野誠一賞 (賞牌)	x-ray portrait	神田 彩子 (カンダ サイコ) 林 真由香 (ハヤシ マユカ)	武蔵野美術大学 造形学部 基礎デザイン学科
石井幹子賞 (賞牌)	日常にとけ込む境界線	富田 太基 (トミタ ヒロキ)	東洋大学 ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科
柴久庵憲司賞 (賞牌)	Generative Design を用いたモビリ ティの形態創出法に関する研究	西村 隆 (ニシムラ タカシ)	千葉大学 工学部 デザイン学科
向井周太郎賞 (賞牌)	MFE-01,MFE-02	二瓶 宏基 (ニヘイ ヒロノリ)	桑沢デザイン研究所 総合デザイン科 プロダクトデザイン専攻
柏木博賞 (賞牌)	SURVEY THE ISOTYPE -アイソタイプの展望-	角田 彰利 (ツノダ アキトシ)	武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科
河原敏文賞 (賞牌)	遊糸	黒川 萌 (クロカワ モエ)	武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科
坂井直樹賞 (賞牌)	TRAM-BUS	星野 佑馬 (ホシノ ユウマ)	武蔵野美術大学 造形学部 工芸工業デザイン学科
都築響一賞 (賞牌)	塔がつなぐ情景	和田 葉 (ワダ シオリ)	工学院大学 工学部第一部 建築都市デザイン学科
日比野克彦賞 (賞牌)	ヴェサリウスダンス	渡邊 真弓 (ワタナベ マユミ)	日本大学 芸術学部 デザイン学科
茂木健一郎賞 (賞牌)	喜怒哀楽 -The 4 feelings-	菅本 智 (スガモト サト)	東京藝術大学 美術学部 デザイン科

## 【大賞】

作 者: 杉山 夏実 (東京藝術大学大学院 美術研究科 デザイン専攻 修了)

作 品 名: About my “topos”

作品概要: 人間は、場所をどう体験し記憶して土地との関係を構築していくのか? その過程において重要な要素となる土地の特徴は何なのか? それらを可視化することが本研究の目的である。「About my “topos”」では、対象者と対象地の主観的繋がりを平面・立体作品で可視化した。対象地は典型的な郊外の新興住宅地であり、私自身が生まれ育った場所である。地域資料や、自分の記憶を描き出した 100 枚のスケッチを基礎資料とし、計 8 点の作品群として展開した。



## 【佳作】

作 者: 荒井 美波 (武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科 卒業)

作 品 名: 行為の軌跡 -活字の裏の世界-

作品概要: 人が物に働きかけた行為の軌跡を見ることで、物の奥から人を感じることができる。活字になる前の本のインディーズである文豪の直筆原稿は、書く行為の軌跡である直筆によって、人間性や身体性を感じ取ることができる。普段見ている文字が、人間がペンや筆といった道具を手に持つことで生まれた「書く」という行為の産物であることを再認識してもらうため、筆癖や書き順、ルビや編集の跡などの活字の裏に隠された人間性を立体によって再構成した。

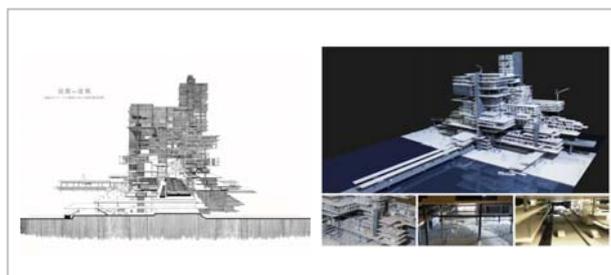


## 【佳作】

作 者: 涌井 匠 (日本大学 理工学部 海洋建築工学科 卒業)

作 品 名: 浸都の改築 -海拔ゼロメートル地帯における街区更改計画-

作品概要: 60 万人もの人が海水面よりも低いレベルで暮らす荒川沿いの低地は、高台不足、各施設の老朽化等、多くの危険を抱えています。政府が 1987 年に発表した高規格堤防整備計画では、今後 400 年かけて新たな地盤を整備することが示されました。また、首都圏の建築需要は未だに衰えず、毎年 10 万件以上の新築が建てられます。圧倒的なスケールと凄まじいスピードで進む都市開発。大都市のポテンシャルを有した「建築の力」なら、できてしまった街を少しずつ変えてゆくことも可能です。



## 【三菱化学賞】

作 者: 森 恭平 (九州大学 芸術工学部 工業設計学科 卒業)

作 品 名: 休耕及び耕作放棄された水田の維持管理のためのデザイン研究

作品概要: 現在、休耕と耕作放棄により日本の水田が荒廃している。放置された水田には雑草が繁茂し、病気が発生し、害虫のすみかとなるなどして近隣農家を苦しめる。また、水田は米の生産だけではなく水源の涵養や良好な景観の形成、多様な生態系の構築など多くの役割を担っている。本研究では、水田の機能を保持したまま維持管理していくためのしくみを提案する上で、必要と考えられる畦板と水門、フェロモントラップの 3 つのプロダクトを設計した。

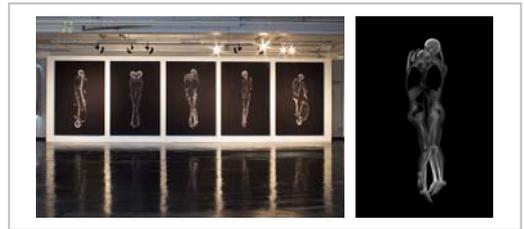


### 【水野誠一賞】

作 者：神田 彩子、林 真由香（武蔵野美術大学 造形学部 基礎デザイン学科 卒業）

作 品 名：x-ray portrait

作品概要：この制作はレントゲン撮影を用いて、日常的に知覚している二人の情報を排除し、意識下の「ふたり」を描こうとする試みである。CT スキャンとレントゲンを使い実際に複数のペアの撮影を行った。CT スキャンやレントゲンによる画像は物質に過ぎない人間の肉体の有限性を映し出すが、「ふたり」のx-ray写真は通常では映し出されることのなかった内的な心情の存在を浮かび上がらせてくるかもしれない。



### 【石井幹子賞】

作 者：富田 太基（東洋大学 ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科 卒業）

作 品 名：日常にとけ込む境界線

作品概要：日常生活の断片的な時間の中で、人は無意識に行っている行動があるのではないか。それは季節、気温の変化によって日陰のできる場所、または日の差し込む場所を探し出す、そういった行動かもしれない。これは、光と影によってできる「境界線」を、無意識に知覚しているということだ。また、影による境界線は一つの領域をつくり出し、それが時間とともに変化していく。本作品においては「日常にとけ込む境界線」を使用した領域を提案する。

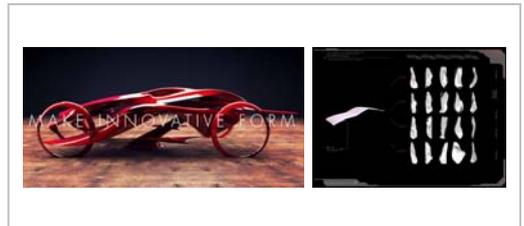


### 【榮久庵憲司賞】

作 者：西村 隆（千葉大学 工学部 デザイン学科 卒業）

作 品 名：Generative Design を用いたモビリティの形態創出法に関する研究

作品概要：本研究は、カーデザインの初期段階で重要な要素となるアイデア展開において、デザイナーの発想を飛躍させる造形の効率的な創出及びカーデザインへの応用に関する研究である。デザイナーの意図に依らないランダムな造形をコンピューターで無数に創出し、それらに対して対話型遺伝的アルゴリズムのアイデアを応用することで、今まで思いつかなかった新しい造形を創出する。デザイナーの新たな発想の一助となるシステムを目指した。



### 【向井周太郎賞】

作 者：二瓶 宏基（桑沢デザイン研究所 総合デザイン科 プロダクトデザイン専攻 卒業）

作 品 名：MFE-01,MFE-02

作品概要：大都市の消防団が使う、とても小さな消防車です。「大都市」「消防団」「大災害」をキーワードに、全長 2000mm、全幅 1300mm、全高 1600mm とコンパクトで、密集した市街地でも活動することが可能な車両をデザインしました。また消防団が使う手押しの可搬ポンプに替わり、団員の使い勝手も考慮したデザインとなっています。そして大災害時を想定し、オフロードタイヤなどを装備していたり担架を積むことができます。

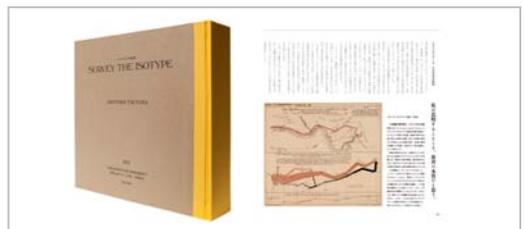


### 【柏木博賞】

作 者：角田 彰利（武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科 卒業）

作 品 名：SURVEY THE ISOTYPE -アイソタイプの展望-

作品概要：現代の統計図表の先駆けであるアイソタイプに関して誤解が生じていることがしばしば見受けられる。例えば、世界中の多くのデザイナーによる独自のピクトグラムや棒グラフの代わりにピクトグラムを並べればよいという誤解などである。ここでもう一度、オットー・ノイラートの思想に立ち返り、情報を視覚化する意味や、原理を再考することで、今後のダイアグラム発展の道標としたい。

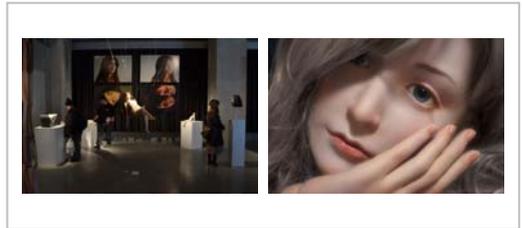


### 【河原敏文賞】

作 者: 黒川 萌 (武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科 卒業)

作 品 名: 遊糸

作品概要: 移り変わる表情・感情こそが人間らしさなのではないかと考え、角度や光によって見える表情が変わる人形を作りました。動かないはずの物に動きを閉じ込めれば、そこに息吹を感じられると思いました。タイトルの「遊糸」とは、早春の頃、空中に蜘蛛の糸が浮遊する現象のことで、あるかなきかのものに例えられるそうです。少女と女性の狭間の、複雑で曖昧で不安定な感情のイメージをこのタイトルにこめました。



### 【坂井直樹賞】

作 者: 星野 佑馬 (武蔵野美術大学 造形学部 工芸工業デザイン学科 卒業)

作 品 名: TRAM-BUS

作品概要: 人と街をつなげる新しいモビリティ。古くからの商店街は魅力的なショッピングモールです。しかし狭い路地にあり、公共交通や駐車場が付近にない場合が多くアクセスが不便です。また郊外の大規模ショッピングモールを相手に近年は苦戦しています。トラムバスは、住宅地から商店街へとダイレクトに運行し、コンパクトな車幅で狭い路地でもスムーズに走れます。トラムバスは商店街の利便性と魅力を更に向上させるでしょう。



### 【都築響一賞】

作 者: 和田 栞 (工学院大学 工学部第一部 建築都市デザイン学科 卒業)

作 品 名: 塔がつなぐ情景

作品概要: 効率化が進む現代社会のなかで故人や祖先に対する価値観や想いが希薄化し、お墓参り代行のような本質を欠いた事業まで広まっている。葬送の瞬間はもちろん大切だが、本当に大切なのは故人を忘れずに想い継続的に弔うことではないか。弔うという行為が日常に溶け込むように、長い歴史を経て地域に馴染み役割を終えた建物を用途転換し、都市の中でネガティブな存在となっている葬祭空間を日常の中の特別な場所として提案する。



### 【日比野克彦賞】

作 者: 渡邊 真弓 (日本大学 芸術学部 デザイン学科 卒業)

作 品 名: ヴェサリウスダンス

作品概要: アンドレアス・ヴェサリウスによって生み出された解剖図に出会って、人間は骨があり筋肉があるからこそ動き、生かされているということに気付かされた。体の内側と外側の関わりが希薄になってしまっている現代の我々に向けた、骨と筋肉を身をもって実感させるためのダンス、ヴェサリウスダンスを発信する。



### 【茂木健一郎賞】

作 者: 菅本 智 (東京藝術大学 美術学部 デザイン科 卒業)

作 品 名: 喜怒哀楽 -The 4 feelings-

作品概要: 喜怒哀楽の帽子。感情そのものを具現化した帽子。人の感情は心臓よりも、頭で考えられたものであり、頭から湧き出した感情を具現化し、帽子として身に纏ったら面白いと思い制作した。静止した立体物の中に感情を組み込むことで、見る人に想像する余地を残し、動きを感じさせた。それぞれ自然物から要素を抽出した(喜「花の芽吹き」、怒「燃え盛る炎」、哀「したたる雨水」、楽「悠々たる雲」)。



## ＜審査員総評＞

### 水野 誠一（ソーシャル・プロデューサー）

今年で第 8 回目を迎える「MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD」。毎年の各賞の選定には、審査員一同、実に真剣な討議を重ねます。今回も例年以上にレベルが高く、何時もよりさらに時間が掛かりました。いつも審査の基準となるのが、学生らしい自由な発想と他に例がないオリジナリティや現代に見合う時代性などですが、今回の審査では、とりわけ受賞作品がステロタイプにならないように注意しました。そんな経緯で選ばれた作品、ゆっくりと鑑賞戴ければ幸いです。

### 石井 幹子（照明デザイナー）

今年のアワードに寄せられた作品は、昨年に勝るとも劣らず、力作も多かったという印象を受けました。デザインの分野は、いま多様化してきていますが、応募作品にもそういった気配が感じられます。今後は、もっと多角的で様々な作品一特に若い人ならではの異色の卒業制作が、出現することを期待しています。

### 榮久庵 憲司（インダストリアルデザイナー）

これから日本の将来に何が必要なのかを研究する必要がある。幸いにも今回三菱化学賞の作品にはそれが見えた。日本の食糧危機に着目し、全国の水田を対象としたところが良い。日本は国が小さく資源に乏しい。しかし、考え方によれば資源の無い国は立派な挑戦らしさを自ずと持っている。小国、省資源の国だということにむしろ感謝してよい。どこの国もいずれは同じ危機に面する。当面の問題は水だと思っているが、他にも挑戦すべき問題は山程ある。

### 向井 周太郎（武蔵野美術大学名誉教授、デザイン研究者）

今年度も全体に新たな特色の充実した成果が得られた。特に大賞作品は、人の棲み家として、現代哲学の関心事でもある「場所（トポス）」の記憶を固有の描法や構成法で可視化した在来のデザイン概念を超えた大作であった。佳作も、作家の直筆原稿からその生命的身体性を喚起する臨書の試みや東京・海拔ゼロメートル地帯の大胆な改造計画。三菱化学賞も、荒廃する水田の維持管理のための革新的なプロダクトの提案。審査員特別賞も、それぞれ新しい特色と広がりをもった作品群であった。

### 柏木 博（武蔵野美術大学教授、デザイン評論家）

全体の印象として、毎回、レベルが高くなっているということがまず感じられました。また、グラフィック、プロダクト、建築、ファッションなどかたよりなく優れた作品があったことが良かったと思います。こうした今回の作品を見ていると、今後、ハードルがますます高くなるでしょう。大賞の作品は、「場所」つまりトポスという哲学的な問題を実にわかりやすく表現していました。また、佳作の「行為の奇跡」は手書き原稿の手の特性をよく捉えていました。同じく佳作の「浸都の改築」は、3・11以降の都市の問題を捉えて説得的でした。

### 河原 敏文（プロデューサー、ディレクター、CG アーティスト）

昨年とは対照的に、今年はバーチャルな作品が入賞しなかった。全てリアルな世界の中で手間と時間をかけた大作が多かった。大賞の「About my “topos”」は、その最たるもので、非常に個人的な作品が、誰もが感情移入できる普遍的な世界として完成されている。懐かしい人間的世界が時間と空間のパノラマの中に楽しく表現されている。インターネット社会の中で、私達はリアルな世界を懐かしんでいるのかも知れない。

### 坂井 直樹（成蹊大学客員教授、コンセプター）

大賞を受賞した杉山夏実さんの「About my “topos”」をはじめ二つの佳作も共通する点として、アイデアのすばらしさはもちろんのこと膨大な時間をかけて実に丁寧に作られていることを評価したい。卒業制作を対象にしているということは、かけがえのない豊かな時間が作品を醸成できる最後の機会を対象にしているとも言える。そういう MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2013 はとても充実した作品が多く集まり、審査員の気持ちも豊かにした。

### 都築 響一（編集者）

このアワードが始まったころから較べると、プレゼンテーションの技術はすごく高度になってきている。なのでワンアイデアが、端正な CG によって、いかにも実現可能なプロダクトに見えたりもする。でも、ほんとうに大切なのはその先だ。思いつきを、しつこいしつこい手作業で現実に近づけていくこと。その努力と時間が、思いの深さにそのまま比例するのだから。

### 日比野 克彦（アーティスト）

卒業制作、修了制作の役割はその後の人生を一変させるといっても過言ではない。というのは大げさでしょ、と言われるかもしれないが、そうでもなく、事実な場合がある。その実例として私自身がそうであった。私が学部を卒業したのが 1982 年。卒業制作は段ボールを素材とした平面作品と立体作品。その作品で個展を開くことになり、その個展で制作した作品のシリーズが、公募展でグランプリになり、広告美術、舞台美術、展覧会などの仕事をできるようになる。大学院の 2 年間は教室がオフィス化して仕事場となった。もし、あのときあの作品がなければ、今の自分は違っていたかもしれない。いや違っていたらう。作品を発表することにより、人が評価する。その連続である。とはいえず評価されるために作品を制作しているのではない。とはいえず独りよがりではない。それが作品制作。それが作家活動。

### 茂木 健一郎（脳科学者、ソニーコンピュータサイエンス研究所 シニアリサーチャー）

デザインの潮目の変化のようなものを感じる。デザインの領域が、モノからコトへ、アナログからデジタルへと拡張する一方で、原点に還る、というような動きが確かに感じられるのだ。祭りは常に終わり、また始まろうとしている。若い挑戦者たちは、そのような時代の更新に敏感でなければならない。応募作品を見ていて、確かにアンテナの先はそこにある、と納得させられる作品が多かった。だからこそそのコンペなのだろう。

## MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2013 実施概要

- 主 催： MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 実行委員会  
委員長：水野 誠一／委員：石井 幹子、榮久庵 憲司、向井 周太郎、富澤 龍一
- 特別協賛： 三菱化学株式会社
- 協 力： 株式会社三菱ケミカルホールディングス
- 対象分野： プロダクト、グラフィック、ファッション、マルチメディア、パッケージ、デザイン研究などのデザイン全般
- 応募資格： 高等学校卒業後、日本で2年制以上のデザイン関連学校で修学し、  
2013年3月に卒業した学生の卒業制作および修士修了制作。高等専門学校卒業生も応募可能。
- 応募方法： 「応募フォーム」によるオンライン応募
- 応募期間： 2013年1月25日－2013年5月31日
- 審査基準： 独創性、デザイン性、機能性、実現性・経済性、社会への貢献
- 審 査 員： 審査員長 水野 誠一 (ソーシャル・プロデューサー)  
審査員 石井 幹子 (照明デザイナー)  
榮久庵 憲司 (インダストリアルデザイナー)  
向井 周太郎 (武蔵野美術大学名誉教授、デザイン研究者)  
柏木 博 (武蔵野美術大学教授、デザイン評論家)  
河原 敏文 (プロデューサー、ディレクター、CGアーティスト)  
坂井 直樹 (成蹊大学客員教授、コンセプター)  
都築 響一 (編集者)  
日比野 克彦 (アーティスト)  
茂木 健一郎 (脳科学者、ソニーコンピュータサイエンス研究所 シニアリサーチャー)
- 特別審査員 富澤 龍一 (株式会社三菱ケミカルホールディングス 特別顧問、  
三菱化学株式会社 特別顧問)
- 審査方法： 上記審査員による一次審査(書類)、最終審査(プレゼンテーションパネルおよび実物または模型)  
により決定。
- 賞 典： 大賞 (1点) 賞牌と賞金 100万円  
佳作 (2点) 賞牌と賞金 30万円  
三菱化学賞 (1点) 賞牌と賞金 30万円  
審査員特別賞 (10点) 賞牌

次回は、2014年1月より作品募集開始予定です。